

広島子どもの心支援ネットワーク第70回研修会報告

- 期日：2022年9月10日（土）13：30～17：30
- 場所：対面・オンラインハイブリッド開催
- 対面会場：TKP ガーデンシティ PREMIUM 広島駅前
- オンライン：Zoom
- テーマ「つなぐ」児童精神医療と学校の連携とは？
- 内容：
 - 13：30～13：50 開会・講師紹介
 - 13：35～14：35 講演「児童青年期の診療の実際」
土岐茂先生（浅田心療クリニック コモリエ）
 - 14：50～15：30 実践発表①「子どもサポート連携シート導入の3年目」
升田智子先生（浅田心療クリニック）
 - 15：50～16：30 実践発表②「院内学級と医療，そして地域校への連携」
西垣伸悟先生（大阪府立支援学校）
 - 16：50～17：30 ディスカッション

◇ 講演「児童青年期の診療の実際」

- ✓ 子どもの抱える課題をいろいろな側面からみていく
子どもの抱える課題，生じている問題状況を，発達障害，家庭環境，精神病など，多面的にその背景をアセスメントすることの重要性が示された。これまでも本研究会にて強調されていたことだが，医療面からの指摘に改めてその重要性を確認することができた。
- ✓ 状態の程度に応じて階層的に支援していく
Tier 1：全ての子どもの対象にした支援。学校やSWとの連携。
Tier 2：医師，心理士，SWなどがそれぞれ個別に支援。
Tier 3：様々な専門性を持ったメンバーがチームで支援。
Tier 4：入院も視野に入れた重点的な支援。
1～4に向かうに従って重度な状態。浅田心療クリニックは，主にTier 1，Tier 2を扱う。
- ✓ 医療面から考えられる学校の役割
学校でのメンタルヘルス，友達づくりなど，1次予防がとにかく大事。特にコロナ禍で社会性が阻害されている状況の中，ストレスに対する脆弱性が高い人のうつや不安は深刻。

◇ 実践発表①「子どもサポート連携シート導入の3年目」

- ✓ 学校（教員）に対する調査
学校からの大量の問い合わせに対応しきれない状況があり，学校（教員）の意識を調査した。その結果，「課題のある子ども。保護者への対応の仕方がわからない」，「学校からの情報提供をどうすればいいかわからない」，「学校からの要望や質問を聞いてほしい」という3つのポイントに絞られた。これを受けて，学校のニーズを上手く収集するための連携シートを作成，導入した。
- ✓ 連携シートの導入

連携シート導入により、以下のような成果があった。

- 学校からの情報収集が効果的かつ効率的にできるようになった。
 - 保護者の署名を得ることで、確実に保護者の同意を得ることができるようになった。
 - 教頭先生の署名を得ることで、担任個人ではなく学校との連携につながった。
- ✓ 上手く連携するために学校にできることは？
- 参加者によるディスカッションと共有を行なったところ、概ね以下のような意見で一致した。
- 課題のある子どものアセスメントを行い、学校としての見立てと支援内容を明確にする。
 - アセスメントの結果と支援策を学校組織として共有できる体制を整える。

◇ 実践発表②「院内学級と医療、そして地域校への連携」

✓ 学校紹介

常時 15 名ほどが在籍し、年間約 70 名の子どもに関わる。医療や福祉との連携を行いながらの個別の支援に加え、集団や横のつながりを活用した支援のために、校外学習、運動会、修学旅行などの行事も積極的に行なっている。

✓ 入院時

主治医からの医療所見（A4 1 枚のシート）をもとに、学習条件や配慮事項を確認し、保護者との教育相談も考慮に入れながら、担任が授業の進め方や支援の方向性を決める。

✓ 入院中

看護師からは病棟での生活面の様子を、担任からは学校での様子や支援目標と成果を、それぞれ共有する日々の連携が行われる。さらに、学校病棟連絡会などを通じて、主治医や心理士との連携も進めている。

✓ 退院

● 試験登校

主治医からの指示を受け、担任から地域校へ試験登校の依頼を行う。地域校の中には、試験登校に消極的な学校があったり、現在はコロナの影響で実施できなかったりと課題はあるものの、子どもが段階的に地域校に戻すために非常に有効な手段となっている。

● 退院前カンファレンス

主治医、看護師、保護者、SW、担任、地域校で、子どもの状態を共通理解する。しかし、地域校によっては、人員不足や多忙さなどの課題から支援内容に難色を示すことがあり、常にスムーズな連携ができるわけではない。主治医の専門的な見立てや、医療と教育の両面に詳しいアドバイザー、SW の介入などにより課題の軽減が期待できる。

◇ ディスカッション

- ✓ 様々な課題を抱えた子どもたちの支援、集団育成も含めた包括的な支援の“ゴール”とは？
- ✓ “ゴール”の達成をチームで進めるために、何をどのようにすればいいか？

講演、実践発表を通じて、「連携」に関して様々な角度から学びを深めることができた。最後に上記の内容について、参加者によるディスカッションを行なった。学校において、適切なアセスメントに基づいて、チームとして「ゴール」を明確にし、誰がどんな支援をいつ行うのかという「方針」を立て、具体的な「支援」を進める。そして、その体制を推進できるコーディネーターの役割を担える教員が求めら

れるという結論を共有した。